

「株式会社小川優機製作所」取材レポート

経営学部 西村優希 (所属:田中ゼミ)

工学部 中島竜也 (所属:山崎研究室)

◎ はじめに 一丸となる経営

株式会社小川優機製作所は、真空技術を駆使したロボットを用いてコンクリート壁面などの劣化診断や、試作品を作る会社です。さらには、デジタルメカ工房といったポンチ絵や、図面が無くても2次元・3次元 CAD に起こすことができ、それぞれのデータから3Dプリンター、マシニングセンターを使って作ることが可能です。すべて自社で行っています。「小さくて優れた製作所」の特色をいかして製品を開発しています。

◎ 会社の主力製品・技術 吸盤・吸着技術を利用した壁面走行ロボット「吸盤戦士のぼる君」

「吸盤戦士のぼる君」とは吸着パワーハンドの技術をいかした製品です。この真空技術を使って壁面を何事もなく登っていきます。のぼる君の中央に搭載されている、壁面調査診断装置はコンクリート壁面等の劣化診断に活用できます。特徴としては、装置中央部に搭載された打診構想部には打診ハンマー、モニタリング用カメラ、打診音収録マイクが搭載されています。最新の、のぼる君の本体重量は25kgと軽く、アップデートしていくごとに軽量かつ、小型化になっています。例えば人が登ることのできない狭い、家の間などさまざまなところに応用できるのではないかと思います。

◎ 主力製品のおもな売り先を教えてください。

点検ロボということで主に、インフラ保守事業で活躍できるのではないかと思います。私たちが普段何も考えることなく渡っている、川の橋脚などの点検は人がコンクリートを叩いて、状態をチェックするのはコストとテマが非常にかかります。ですがこののぼる君はロボットに壁面調査診断装置を搭載しているので、安全でかつコストが安く済みこれからのインフラ保守事業では、どんどん使われてくるのではないのでしょうか。

◎ この展示会でアピールしたいものを教えてください。

今回の展示会では、吸着パワーハンドを見せていただきました。吸着パワーハンドは、乾電池で駆動することができます。尚且つ省エネです。さらに乾電池を使うので災害時でも使用することができるので様々な用途に応用して使うことができます。主力である真空技術を使用しており、最大で490Nの吸着力を発生することができます。

◎ 会社における展示会の位置づけについて教えてください。

ロボットは年に1~2回ほど出展しています。普段は今回のような展示会への出展は少ないとおっしゃっていました。普段と違うような展示会に出展したということでまた違ったことを得られるのではないかと思います。

◎ 展示会で成果を出すために取組まれていることを教えてください。

展示会の場では自分たちの製品を知っていただきたいということを話してくれました。

◎ 展示会での成果(受注事例、効果、メリット)などを教えてください。

出展することにより、お客様と約束してもらえたり、メディアへの出演依頼などお願いされることがあります。メディアへの露出をすることによって見たり、聞いたりするので、そこからまたお客様からの問い合わせがあります。

◎ インタビューを終えて

今回、インタビューに対応していただいた技術開発担当の佐藤さま、社員の方には、懇切丁寧に質問に答えて頂きました。吸着パワーハンドを実際に使用させていただき、どういう物なのか試させていただきました。我々の生活の身近なところで、今後活躍していくであろうと思いました。お忙しい中、協力を頂き、ありがとうございました。

◎ 会社概要

会社名	株式会社小川優機製作所
HP	http://www.ogawa-yuki.com
所在地	神奈川県横浜市保土ヶ谷区阪本町 141
電話	045-332-2721